

心のケア 長期サポート

東北大グループ 相談電話を開設

東日本大震災で傷ついた心のケアを長期的に行おうと、東北大大学院教育学研究科の若島孔文准教授（臨床心理学）らのグループが、5年間にわたって被災者の相談を受け付ける専用ダイヤルを開設した。電話番号を記載した名刺大のカード5000枚も作成し、避難所などで配布している。メンバーは「財布などに入れて、必要になったらいつでも連絡してほしい」と呼び掛けている。

相談に応じるのは、若や、研究室に所属する臨着くと、不眠などの症状を続けることにした。島さんが設立したNPO 床心理士ら。被災者はまともにも、心のケアのニーズが増えるとの分析。長

2次避難や仮設住宅への入居などで、被災者の

生活場所が変わっていくことを想定し、携帯しやすいカードを作った。4月中旬から石巻市内などで配布を始め、18日には、気仙沼市内の避難所で約200枚を配った。カードを受け取った市内の無職女性（64）は「自宅が津波で流され、一関市内の雇用促進住宅に入居することになった。いつ戻って来られるか先が見えず、不安だ」と訴えた。

被災者の生活安定には長い期間を要するが、心のケアに当たる全国の支援チームの活動や電話相談は数カ月程度で終了するケースが多い。若島さんは「本当に必要なになった時の受け皿になりたい。長期的なサポート体制を作り、ニーズを探りながら、他団体とも連携していく」と話す。

専用ダイヤルは022(3952)8950。受付時間は月・火曜の午前11時～午後5時。

（菊池香子）

5年継続 ニーズ探る 紹介カード 避難所に配布



専用ダイヤルの電話番号を記載したカードが被災者に配布された18日、気仙沼市